

平成23年度 「学力向上のための学校改善プラン」						学校名	土佐清水市立		清水小学校										
校長名	村上正大		教頭名	山崎修二・佐竹正史		主幹教諭名		指導教諭名		教務主任名	本山英世	研究主任名	舛市 司						
教職員数	学級数	13(3)		児童・生徒数	375(8)		※平成23年4月現在の状況を記入してください。 ※学級数及び児童生徒数について、特別支援学級は()内に外数で記入してください。												
本年度の学力向上のための学校改善プランを作成するに当たっての基本的な考え方等			新教育課程研究の指定(算数科における研究)を受けて2年目となる。昨年度の取り組みをしっかりと検証し、研究体制づくり、授業づくりに重点を置いて計画を立てる必要があり、県内における先進的な取り組みにつながるよう工夫した。																
1 学校の状況	平成23年4月当初(平成22年度末)の状況						中間検証時の状況												
	これまでの全国学力・学習状況調査の児童の状況を経年比較した場合、平成20年度及び平成21年度は全国を国語AB、算数ABとも正答率が100を切っていたが、平成22年度は算数B問題以外はこれまでより正答率が上がっている。特に国語Bにおいてはどの領域においても全国、県よりも高く言語事項においては、20ポイントほど高くなっている。算数B問題においては、数と計算の領域以外は全国、県よりも低い、その差は縮まってきている。単元テストにおいては中学年において二極化の傾向が出ており、中学年で学力定着が今後の課題となる。						4月に4年生から6年生において標準学力調査を実施した。国語科においては、4年生、5年生で領域別では、「書くこと」に10ポイント以上低くなっている。また、活用問題においても4年生、5年生は5ポイント低くなっている。6年生については、国語科では、「書くこと」と活用問題で5ポイントくらい低くなっているが、算数科においてはすべての項目で、期待正答率を上回っている。4年生、5年生では、活用問題で期待正答率に達していなく、活用力に課題がみられる。												
2 学力向上の具体的な到達目標	平成23年4月当初						中間検証												
	(1)到達度把握検査、学力標準検査などにおいて県平均より+3ポイントを目指す。 (2)算数シートや単元テスト等を活用し、期待正答率より+5ポイントを目指す。 (3)学校評価アンケートの授業に関する項目において肯定的な評価を85%以上にする。 (4)授業力診断シートを年間2回以上活用して、授業改善に努める。						プランの変更有・(無) 考察(到達目標の見直しを含む) 進捗状況の評価 A B C D 国語科、算数科とも活用力を問われる問題で大きく期待正答率を下回っている。このことは、主体的に問題を解決していく力を身に付けることが、思考力、判断力、表現力等を育成すると考える。そのため到達目標については、現状のまま行い、授業づくりについて研究を進め、一層学力向上に向けて取り組みを進めたい。												
3 「2」の目標を達成するための今後の具体的な取組(項目別)			※各項目内の枠の区切り方や「スケジュール」の時期の示し方は、適宜設定してください。																
	主な取組内容 <small>※誰が(どこ)行うのかも分かるようにしてください。</small>	取組内容の評価指標	スケジュール <small>※いつ、何を行うかの目安を記入してください。</small>												中間検証				
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	評価	改善のために行う今後の重点			
学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	研究推進チーム(管理職1、研究主任【新教育課程部長】、確かな学力部長、豊かな心部長)を設け、全体の取り組みについてPDCAサイクルで研究を進める。【研究推進チーム】	校内研修年間計画の実施 定期的な研究推進チーム会の実施	研究推進チーム会															算数科における年間指導計画について、毎時ごとの言語活動の充実に向けた計画を作成する。取り組みは進んでいるが、部会の横のつながりを深める。	
	全教職員が三部会のいずれかに属し、研究の中で一役を担い研究を進める。また校務分掌を細分化することで、教職員全体で取り組むと言う意識を持たせる。【三部会】	学校評価アンケート結果で授業、学級経営、職務等の関連する項目の肯定的な評価を83%以上を目指す。	全校研各部会				中間検証・改善策の検討	全校研各部会 公開授業	公開授業	公開授業	公開授業	公開授業		学校評価アンケート実施	全校研 学校改善プラン作成				
	新教育課程部会を中心にして、授業改善に努め教員の資質指導力の向上につなげるための研究を進める。【新教育課程部会】	教科経営計画の作成及び、実施、年度末には計画の見直しを行う。	教科経営計画作成	先進校視察	実施・チェック						実施・チェック				教科経営計画 検証・次年度計画				
子どもにわかる授業づくり (授業づくりのスタンダードの活用など)	学習ルールの徹底を図りながら、CRT検査を始め、単元テストや標準学力検査を実施、分析し、共に学びあいのできる授業づくりに努め、学力の定着と向上を目指す。【確かな学力部会】	単元テストや評価テストにおいて児童の学習定着状況を確認する。単元テスト結果については県平均、設定正答率を上回る。	学習ルートや「授業づくりのスタンダード」についての確認	学力検査や到達度検査等の分析・計画	重点学習ルールの設定・検証		一学期の取り組みについての検証・改善策の検討	重点学習ルールの設定・検証						設定・検証・設定	評価テストから見た学力定着の検証・次年度の計画			公開授業、研究授業では、学年、ブロックでの教材研究の時間を確保し、考えをまとめ発表するという言語活動を重点に取り入れた授業のスタンダードを作成し、日々の授業でも取り組めるようにする。	
	自ら学ぶ力を育てるために、「授業づくりのスタンダード」に基づいた授業展開を意識的に取り入れる。【新教育課程研究部会】	授業力チェックシートや授業アンケートにおいて、平均3.3以上の評価を目指す。	計画的な外部講師の招聘 2学期末までに全学級公開授業の実施	公開授業講師招聘											授業評価実施・検証	授業評価の集計・分析 次年度への課題			
	全教員が公開授業を行う。全校研では、3ブロックでおこない、講師を招聘し研修の充実を図る。【確かな学力部会】																		
学校全体で予習・復習(宿題)の質と量をも高める取組	新出漢字や計算学習については、先取りに学習しながら、年間を通して繰り返し定着を図る。また取り組みについては、評価テストで確認しながら学校全体で徹底を図る。【確かな学力部会】	全学年、漢字定着到達率90%以上、計算力定着到達率80%以上を目指す。	学習プリントの作成	帯時間等での繰り返し学習		評価テストの実施・検証	一学期の取り組みについての検証・改善策の検討	帯時間等での繰り返し学習						評価テストの実施・検証	評価テストの実施・検証			計算、漢字、家庭学習の取り組みなど個々に任されていることが多いことから、取り組みを共有化し、効果的な取り組みについて組織的に取り組む。	
	家庭学習については、高学年において自主学習を積極的に取り入れ、授業で活かせる家庭学習のサイクル化に取り組む。【確かな学力部会】	家庭学習の定着率95% 授業の中で活かせる家庭学習の割合を増やす。(授業力チェックシート活用)	手引き作成・保護者へ啓発	生活調査 学級便り等で啓発	家庭学習と授業とのサイクル化	夏休みの課題作成		生活調査 夏休みの集約	家庭学習と授業とのサイクル化					取組報告 冬休みの課題作成	家庭学習の取り組み総括	家庭学習の見直し			
その他	小中連携の取り組みを、学力面だけでなく生活面でも意識して中1ギャップ解消に向けて研修を深める。【三部会】	校内研修での9年間の育ちを見通した研修の場を設ける。	活動年間計画作成	Q-Uの実施	全校研 Q-U分析	夏休みの過ごし方	学級経営 検証・改善	全校研	児童の実態把握	Q-Uの実施	全校研 Q-U分析	全校研	体験入学 説明会	次年度の計画			公開授業、研究授業へ積極的な参加を呼びかけ、小中を見通した学びを考えていく。		
	校内研修への参加を呼びかけながら、校区の小中学校との連携を図る。【三部会】	全体での公開授業の場に中学校の職員にも参加してもらう。(3回)	小中連絡会			授業相互参観							小中連絡会	小中連絡会					